

表 9 2008・2009 年度 都城発掘調査部（平城地区）発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺 跡	調査期間	面 積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2008 年度)								
440 次	6AAF-J	平城宮東方官衙地区	2008.11.19 ～ 2009.2.6	255㎡	奈良市佐紀町	今井晃樹	学術調査	126
448 次	6AGF-H・G	平城京右京三条一坊八坪	2009.1.6 ～ 2009.3.23	1100㎡	奈良市二条大路南	林 正憲	建物建設	168
(2009 年度)								
446 次	6ALR-G、6ALQ-H	平城宮東院地区	2009.10.1 ～ 2010.3.31	1505㎡	奈良市法華寺町	鈴木智大 国武貞克	学術調査	136
454 次	6ABR-E・F	平城宮第一次大極殿院地区	2009.4.13 ～ 2009.7.15	1556㎡	奈良市佐紀町	大林 潤	学術調査	138
456 次	6AFB-M、6BKA-M	海龍王寺旧境内	2009.5.11 ～ 2009.5.18	22㎡	奈良市法華寺町	浅野啓介	住宅建設	144
457 次	6BYS-J・K・N・O・P	薬師寺境内	2009.6.25 ～ 2009.11.19	201㎡	奈良市西ノ京町	浅野啓介 箱崎和久 林 正憲	防災工事	146
458 次	6BKF-J	興福寺南大門	2009.7.13 ～ 2009.12.22	774㎡	奈良市登大路町	森川 実	史跡整備	154
459 次	6ASA-K	平城宮北方遺跡	2009.6.1 ～ 2009.6.5	12㎡	奈良市山陵町	浅野啓介	住宅建設	124
460 次	6AFC-H	平城京左京一条二坊九坪	2009.7.9 ～ 2009.7.16	21㎡	奈良市法華寺町	芝康次郎	住宅建設	124
461 次	6AFC-G	平城京左京一条二坊十五坪	2009.8.5 ～ 2009.8.19	18㎡	奈良市法華寺町	森先一貴	住宅建設	124
462 次	6AFF-E	平城京左京二条二坊十四坪	2009.9.7 ～ 2009.9.14	36㎡	奈良市法華寺町	馬場 基	住宅建設	124
465 次	6BKF-E	興福寺旧境内	2009.12.8 ～ 2010.1.29	43㎡	奈良市登大路町	林 正憲 桑田訓也	バス停建設	124
466 次	6AAG-G・H・I	平城宮東方官衙地区	2010.1.21 ～ 2010.4.23	666㎡	奈良市佐紀町	国武貞克	学術調査	132
467 次	6AED-E	興福寺旧境内	2010.2.2 ～ 2010.2.17	28㎡	奈良市東向山	海野 聡	店舗兼用住宅建設	124
468 次	6BFK-I	法華寺旧境内	2010.3.10 ～ 2010.3.31	22㎡	奈良市法華寺町	中村亜希子 山崎 健	住宅建設	124
2009-7 次※	6BKF-E	興福寺旧境内	2009.5.12 ～ 2009.5.15	6㎡	奈良市登大路町	国武貞克	排水管付替	164

※立会調査

表 10 2009 年度 都城発掘調査部（平城地区）小規模調査の概要

調査次数	遺 跡	調 査 の 概 要
459 次	平城宮北方遺跡	個人住宅の建て替えにともなう調査。調査地は称徳天皇高野陵の南東約 160m。地表下約 50cm で遺構を検出した。検出遺構は幅各 20cm の平行する溝 2 条（中世前期の瓦質土器出土）、東西約 1m の円形土坑、それよりも新しい直径 10cm の小穴（柱根と中世瓦出土）。溝 2 条は方位にのっており、中世前期には方位にのった区画が設定されていたと考えられる。
460 次	平城京左京一条二坊九坪	検出遺構は上層と下層とに分かれる。上層の遺構は現地表下 50cm で検出され、柱穴 1 基、土坑 5 基、溝状遺構 1 基がある。下層遺構はそれより 10cm 下位で検出され、柱穴 1 基がある。出土遺物は少ないものの、古代の須恵器、土師器、瓦がほとんどで、遺構も古代のものと考えられる。
461 次	平城京左京一条二坊十五坪	東西 6m、南北 3m の調査区で、3 枚の遺構面を確認。地表下 90cm の灰褐色土上面で、焼けた瓦・土器等（いずれも奈良時代後半～平安時代）を多く含み火災後の廃棄土坑とおぼしき大型土坑等を検出。下層の黄灰土上面では板石（最大長 15 ～ 50cm）が多数廃棄された土坑や、南北溝・東西溝各 2 条を、最下部の地山面では埴輪片を含む小穴等の遺構を確認した。一条条間北小路推定地に相当するが、関連遺構は確認できなかった。
462 次	平城京左京二条二坊十四坪	共同住宅建設にともなう事前調査。東西 9m、南北 4m の調査区を設定し、現地表下約 2.2m の H = 60.5m で遺構面を確認した。南北溝 1 条・穴 1 基を確認した。
465 次	興福寺旧境内	バス停設置にともなう事前調査。調査地は道路の南北に分かれ、面積は北側が約 23㎡、南側が約 20㎡。北側では、地表下 1.1m 前後で中世の包含層を検出し、一部でその下に厚い粘土層を確認した。南側では、地表下 1.3m 前後で室町前期の瓦溜を、1.7m 前後で古代の東西溝 1 条を検出した。溝は築地塀の雨落溝の可能性もある。
467 次	興福寺旧境内	店舗兼用住宅の新築工事にともなう事前調査。東西 8m、南北 3.5m の調査区を設定した。現地表面以下約 65cm から遺構検出を開始し、地表下約 80cm まで掘り下げ、中世の土坑、南北溝を検出した。その後、地山まで検出をおこない、トレンチの西端で南北溝 1 条を検出した。この溝は条坊側溝の可能性もある。出土遺物は、瓦、土器、軋元大宝などがある。
468 次	法華寺旧境内	個人住宅の建設にともなう事前調査。南北 2m、東西 4m の南区、南北 7m、東西 2m の北区を設定した。南区では、現地表面下約 20cm で柱穴 1 基を検出し、調査区東部で現地表面下約 50cm から凝灰岩を多量に含む整地層を確認した。北区では、現地表面下約 20cm で整地を 3 層確認し、南北方向の柱穴列 3 棟を含む柱穴 9 基、礎石据付痕跡と思われる遺構 1 基を検出した。出土した土器や瓦より古代の遺構と考えられる。

表 11 2009 年度 都城発掘調査部（平城地区）現場班編成 ※総担当者

春	夏	秋	冬
芝 康次郎（考古第一）	芝 康次郎（考古第一：研修）	難波 洋三（考古第一）	※国武 貞克（考古第一）
今井 晃樹（考古第三）	※森川 実（考古第二）	林 正憲（考古第三）	中村亜希子（考古第二）
森先 一貴（考古第三：研修）	森先 一貴（考古第三）	桑田 訓也（史 料）	渡辺 晃宏（史 料）
浅野 啓介（史 料）	馬場 基（史 料）	※鈴木 智大（遺 構）	桑田 訓也（史 料：研修）
※大林 潤（遺 構）	箱崎 和久（遺 構）	海野 聡（遺 構：研修）	海野 聡（遺 構）
			山崎 健（埋文センター：研修）
総括：副所長 井上 和人 中国担当：城倉 正祥（考古第二） 写真担当：牛嶋 茂・中村 一郎（写真室）			